

## 「つながり」を今こそ覚えない

統括主任 飯塚 拓也

4月4日(月)から6日(月)にかけて、東北教区・奥羽教区を訪問させていただきました。4日(月)、四條町教会で疋田議長、平山宣教部委員長と合流し、仙台にある東北教区事務所に到着し、高橋和人東北教区議長、片岡覬也宣教部委員長、小西望財務部委員長よりお話しを伺うことができました。東北教区はエマオ(仙台学生センター)内に「被災者支援センター」を設立し、被災地への支援に取り組んでおられます。ボランティアの一日が終わって、振り返りのミーティングがあり、そこに立ち会うことができました。ボランティアの一人がその日感じたこと、出会ったことを話していました。20名以上のボランティアは、高校生や大学生といった若い方々が中心でした。また、沖縄教区から派遣された金井牧師もいらっしゃいました。年齢や性別、地域を超えたつながりが、そこにあふれていることを知ることができ感謝でした。

平山宣教部委員長の報告にもありますが、ボランティアリーダーの野田先生は、荒浜地区の住民が避難している七郷小学校に毎日通われました。その中で避難している方々のリーダーである菅原さんと出会い、「あなたなら信用できる」との関係を築き、荒浜地区での唯一の外部ボランティアを認められたそうです。本当に尊い業だと思います。

翌5日(火)には、午前中は荒浜地区に伺い、午後には石巻に行きました。石巻では、石巻山城町教会と石巻栄光教会をお訪ねしました。石巻栄光教会の小鮎牧師はかつて関東教区に長くおられましたので、久しぶりの再会となりました。石巻栄光教会は栄光幼稚園と共に、石巻でのボランティアのための宿泊場所を提供してくださっています。

6日(水)は、奥羽教区大船渡教会をお訪ねし、邑原宗男奥羽教区議長とお会いしました。また、この4月より新たに着任された村谷正人牧師ともお会いし、13日に予定している下着のフリーマーケットの打ち合わせを行いました。奥羽教区は今まで何度か大地震に遭遇しており、そこからの積み重ねとして、「教区としては、支援センターは作らず、あくまで一つ一つの教会に寄り添って取り組む」を大切にするとのことです。邑原教区議長が、自らフル回転で動いていらっしゃいます。また、村谷牧師は4月を待たずに着任し、市のボランティアセンターとの丁寧な関係を築いておられました。このため、13日のフリーマーケットの避難所への案内も円滑に行うことができるのです。また、奥羽教区へは北海教区より支援が入っており、被災教会の牧師に休みをとっていただくために、応援の牧師を派遣しています。

今回の訪問を通して、「つながり」の大切さを改めて教えられます。支援活動の背後には、実に様々のそして豊かな「つながり」が存在しているのです。「つながりが形となって表れるのが支援」と言えるでしょう。私たち関東教区も、この「つながり」を覚えましょう。「私たちをつながりの一員としてお加えください」という謙虚さを大事にしましょう。

<ボランティアに関して>

東北・奥羽においては、泥の片づけのボランティアが必要となっています。その中で、東北では被災者支援センターが窓口となっていますので、東北にボランティアに行かれる際には、必ずセンターをお通しください。

ボランティアの原則は、すべて自己責任で行い、現地には決して負担をかけないことです。その中で、それぞれの自治体の社会活動協議会で「ボランティア保険」に加入できますので、必ずボランティア保険に入ってください。

ボランティアに行くための交通費の補助希望は、各地区長を通して教区に申請していただきます。2泊3日以上で、車1台につき4人以上のボランティアに対して、交通費を補助しようと考えています。

## 「仙台市若林区荒浜地区を訪れて」

宣教部委員長 平山 正道

5日（火）午前、東北教区被災者支援センターを拠点に救援ボランティアに従事されている野田沢先生（学生キリスト教友愛会主事）の案内で、仙台市若林区荒浜地区を疋田議長と飯塚副議長に同行して訪れました。ここは地震発生当日、津波によって犠牲者が多数出ていると報じられた地域です。

国道4号線から分かれて荒浜を目指しましたが、不思議に思えるほど何事もなかったかのような街並みが続きます。それが仙台東部道路を過ぎた途端に風景が一変しました。この高速道路の土手が防波堤になり、そこに駆け上がった人々が助かったことは知っていましたが、本当にその通りでした。進むにつれて道路の両側に泥や「瓦礫」と呼んでいいのかわからないモノが積み重なっています。その惨状に息を飲みました。まだ警察や消防が遺体の収容作業をしておられました。所々にかろうじて残った家が、このあたりがもともと住宅地であったことを示しています。被災地の映像は何度も見ましたが、実際にその場所に立つと、地震と津波の凄まじい威力が想像を絶するものであることがよく分かりました。写真は避難所になっている七郷小学校から仙台で唯一の海水浴場、深沼海岸に向かう道路沿いの様子です。このような光景が見渡す限りに広がっているのです。ここで直前までごく普通の日常を送っていた人々の嘆きが聞こえてくるような気がしました。



深沼海岸に着いて振り返ると、手前から荒浜地区の惨憺たる被災地、

その向こうに遠く仙台の高層ビル群が見えています。さらにその背後には、北の船形山から蔵王にかけて、まだ真っ白な雪をかぶった山々の美しい稜線が続きます。景色が3層に積み重なっているように見えました。もちろん、その一番手前の荒浜地区には、最も厳しい「被災」の現実があり、人々が悲しみ、苦しんでいるのです。

地震がもたらしたものは様々ですが、結果としてとてつもない格差を残しました。同じ町でも、どこに住んでいたかで、一人の人の人生が全く違ったものになりました。一筋縄でいかない難しい課題にわたしたちは直面しています。なぜなのか、神様の御心はどこにあるのかと問い続ける毎日です。その答えは分かりません。ただ、教会の使命である「宣教」の質が今こそ問われているのは間違いありません。苦しみ、悲しむ人々と共におられるキリストに仕え続けるわたしたちでありたいと心から願うものです。

### ○東日本大震災救援支援募金

2011年4月7日現在

鹿沼	5,000円	沼田婦人会	50,000円	小計	112,808円
沼田	27,808円	東京聖書学校吉川	30,000円	(教区内)合計	941,693円

皆さまからのお支えを深く感謝いたします。上記以外に教区外からも多くの献金を頂いております。ここでは教区内のみを掲載させていただきます。改めて会計報告をさせていただきます。また、振り込み手続き上の時間差のあることをご了承ください。